

東北交流5年で6回、お疲れ様

第6次チーム報告会開く

ジョイラックデーの11月17日(火)午前11時15分からシルバーカレッジホールで第6次東北交流報告会が開かれました。NPO法人グループわは平成23年7月から27年7月までに5年間で6回、東北大地震の被災地に支援チームを派遣、交流活動を続けてきました。第6次の活動で一応の区切りをつけることになり、総まとめとして、今回の報告会を開きました。報告会を聞いた参加者は「長いこと、お疲れ様。本当によく続けられました」と感想を話していました。

海野龍英さん(6次隊)の司会で開会。塚汎団長の挨拶に続いて、南形徹さん(写真④)は第1次から第6次の活動を振り返りました。

第1次隊(17人)は平成23年7月18~22日に宮城県南三陸町・石巻市・大崎市・登米市へ。大型ライトバン4台に農機具と段ボール65箱分の衣類・日用品など



支援物資を満載、登米の避難所に届けました。神戸を早朝に出発、日本海側回りで深夜に到着。南三陸町では9人が

田んぼのガレキ運びの手伝い。山間の棚田ですが、多くの住宅が全壊、田んぼはヘドロとガレキの山。3日間で3反ほどを片付けました。残り8人は、大崎市などの幼稚園・小学校・児童館を回り、子供たちと昔遊び・紙芝居・マジック・歌を楽しみました(公演の中身は6次までほぼ変わりません)。最終日の22日、南三陸と石巻の被災地を見学。見渡す限りガレキの山。子供たち70数人が大津波にのまれた石巻の大川小学校では道路わきの祭壇に花やおもちゃが供えられ、多くの人涙ながらに手を合わせています。私達も涙がとまりませんでした。

第2次隊(15人)は平成23年10月15日~19日に女川町・石巻市・東松島市・名取市の仮設住宅・小学校・幼稚園・児童館で計11回の交流活動をしました。振興協会チームとの共演も始まり、6次まで続けました。

第3次隊(17人)は平成24年7月7日から13日まで、女川町・石巻市・名取市などを訪問。仮設住宅4か所、小学校5校、保育所3か所、児童館3か所の計15か所。

第4次隊(8人)は、平成25年7月2日から6日まで石巻市・女川町・名取市・仙台市若林区を訪問。仙台豊齢学園と初めての連携プレーが実現しました。

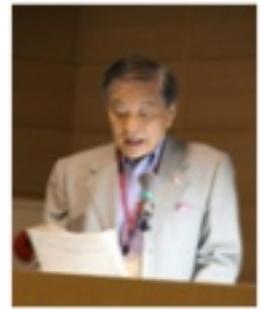
第5次隊(10人)は、平成26年7月2日~6日の日程(4泊5日)で女川町と名取市の小学校・保育所・児童館・復興住宅を訪問。女川町では、5日、完成したばかりの復興住宅集会所で料理の交歓会を開きました。

第6次隊(9人)は、平成27年7月2日~6日まで仙台市・名取市・女川町の小学校・保育所・復興住宅を訪問。5日は自治会役員20人と双方の震災体験や復興、地域ボランティアについて初めて語り合いました。お互いに「中身が濃かった」と評価していました。

最後に小畑浩昭理事長が「派遣人員は延べ80人のほり、派遣費用も〈わ〉会員やカレッジ学生のみさんの募金を活用させていただきました。ご協力ありがとうございました」と挨拶。このほか、ホールの入り口で第6次隊や震災直後と現在の写真60枚を貼り付けたパネル展も開き、参加者らは熱心に見入っていました。

(写真⑤)

〈文・写真 広報・永野知己〉



園児らの「また来てね」に胸が熱く

岡田洋子さん(国21期)の報告要旨

岡田洋子さんは、初めて東北交流に参加、その経験談を語りました。要旨は以下の通り。

私が第6次交流隊に参加したのは、子ども文化のサークルに所属しており、昔遊びを通して子どもや被災した方々と交流できるかな、と思ったからです。

仙台市東六郷小学校は校舎が倒壊して児童わずか17人。チラシで紙鉄砲を作ったり紙飛行機を飛ばしたりして一緒に楽しみました。

女川町では復興住宅でお楽しみ会やカレーを食べながらの交流会、ディスコン大会。自治会役員との懇話会も初めて実施しました。その際、震災直後の女川を撮影したビデオ

オ、阪神大震災のビデオを上映し体験談を語り合いました。婦人部や老人クラブができて活動を始め、趣味の講座も開設されているそうです。

女川に2か所ある保育所もまわり、子どもたちとブンゴマや紙トンボで遊びました。お礼に園歌や七夕さまをうたってくれ嬉しかったです。帰り際に窓から身を乗り出して「また来てね」と手を振ってくれ、またまた感激しました。

町がよみがえるまでには相当の年月がかかることでしょう。被災地で私たちは何ができるのか。〈再び学んで〉の心を実践しようと奮闘されてきた先輩たちの列に加えていただいたことに感謝しています。

